

【論文提出者】 社会文化科学教育部 人間・社会科学専攻 認知哲学・心理学領域
氏名 銭雅純

【論文題目】 意思決定における道德判断の文化普遍性と文化差についての検討

【授与する学位の種類】 博士（学術）

【論文審査の結果の要旨】

銭雅純氏の博士論文「意思決定における道德判断の文化普遍性と文化差についての検討」は、文化的差異による道德的ジレンマ状況における判断への影響についての研究を行っている。道德的ジレンマとは、例えば強制ワクチンに対する人々の態度や医療資源が不足している際にどの患者を集中治療室に入院させるべきかについて医師が行う道德判断などである。この道德的ジレンマは、近年の新型コロナウイルスのようなパンデミックを引き金として、世界的に発生する可能性があるため、異なる文化の人々が同じ道德的ジレンマに直面しながらどのように道德判断を行うのかについて理解することが重要である。

そこで本研究では、実験倫理学的手法により、アジア人（日本人と中国人）を対象として道德判断について調査し、さらに先行研究のアメリカ人のデータも含めて、国際的な比較研究を行うことで道德判断の文化普遍性や文化差について検討している。

研究Ⅰでは、人の思考は2つのシステム（直観的と論理的）によって成り立つという二重過程モデルについて、日本人345例を対象に検討を行っている。その結果、感情が惹起されやすい個人的な道德的ジレンマの状況において、婚姻状況、子どもの有無、年収、就労状況などの社会的人口属性が、日本人の道德判断に影響を及ぼすことを明らかにしている。

研究Ⅱでは、日本人211例、中国人200例、アメリカ人215例を対象にして、二重過程モデルを発展させたCNI（結果、規範、一般化された不作為）モデルが、アメリカ人のみならず、日本人と中国人に対しても適用可能であることを明らかにしている。また、各国の女性は、男性よりも道德的規範に敏感であることを明らかにしている。また、国際比較では、アメリカ人は他の文化圏と比較して、最も道德的規範に敏感であることを明らかにしている。さらに、日本人は他の文化圏と比較して男女ともに不作為の傾向が最も高いことを明らかにしている。

研究Ⅲでは、日本人23例、中国人26例を対象に、脳機能計測機である機能的近赤外分光法（fNIRS）を用いて、CNIモデルの道德的判断課題遂行中の前頭前野の脳活動を比較している。その結果、文化差と性差により、日本人と中国人の道德判断課題遂行中の前頭前野の脳活動が異なることを明らかにしている。

以上、アジア人およびアメリカ人における文化的差異と道德判断との関係を明らかにした本研究は、人の意思決定の解明に大きく貢献するものと思われる。また、すでに本研究に関連した学術論文が国際誌で1件（Current psychology, 2023）、国内誌で2件（人間環境学研究, 2023；熊本大学社会文化研究, 2021）ほど採択され、国内学会での発表も2回行っている。また、今後、国際的な倫理規定の選定などへの波及効果も大きいと予想される。以上のことから、本委員会は、本論文を博士論文として適格であると判定する。

【最終試験の結果の要旨】

最終試験は、令和5年12月26日（火）（10時から11時30分）に学位論文審査委員会委員4名の出席のもとでオンラインにて実施された。最初に本人から学位論文の概要に関する発表がなされ

た後、各審査委員との間で質疑応答が交わされた。いずれの審査委員の質疑に対しても、専門的な学識とデータに基づく適切な応答がなされた。

また、令和6年1月20日(土)(14時から15時)に開催された学位論文公開発表会においては、まず博士学位論文の主旨について発表が行われ、その後質疑が行われた。審査委員以外の出席者からの質疑に対しても適切かつ明快な応答がなされた。

以上から、当該論文の提出者である錢雅純氏は、その研究テーマ及び関連領域に関して優れた学識を有し、自立して研究を行う能力を十分に有すると確認できたため、審査委員会は、同氏に対して博士(学術)の学位を授与するに相応しいと判定するに至った。

【審査委員会】

主査 安村 明

委員 寺本 渉

委員 高岸 幸弘

委員 田中 朋弘